

健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所：日本フローリング工業会
編集責任者：広報法務委員長 石本 勝範〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12 林友ビル6階
TEL03-3868-0971 FAX03-3868-0972 <http://www.j-flooring.jp>

会長就任のごあいさつ

今年度から会長職をお引き受けすることになりました。思いがけない重大な役で責任の大きさを痛感しております。微力非才の身ではございますが、会長の重責を担いましたうえは鋭意専心、工業会の発展のために精励いたす所存でございます。なにとぞ、前会長同様のご指導ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

日本フローリング工業会会長 久津輪光一



<インタビュー>

■取り柄は行動力と突破力

私はまだ54歳と若く、工業会の会員のなかには大先輩方がたくさんいる。キャリアにおいても、見識においても、そして実力においても先輩である方々から「会長をやれ」とおっしゃっていただいた。これは、裏を返せば「あなたは若いんだから、行動力を持って工業会を引っ張っていったらどうか」とご指導いただいたと理解している。

就任するにあたり私の得意な分野は何かと自問すると、やはり「行動力と突破力」が企業人としての強みだと思う。業界の一番苦しい時期に就いた以上、それを存分に生かしていきたい。

工業会には、着実に力を付けている若い経営者がたくさんいる。業界を引っ張っていける若いパワーがある。そうした方々を「どんどん表に出しなさい」といった意味で、中間年齢層である私に会長職をお任せいただいたのではないかと。若い経営者たちの力をふんだんに発揮できる場をつくらなければならない。以上の2点が私の大きなコンセプトワークとなろう。

■会合には地域に捉われず参加する

工業会は80年の歴史を誇る組織。生産部会と施工流通部会に属する会員各社の方々をみると、業界トップに比する「技術力」を持っている。製造性の高い技術力、施工流通性の高い技術力を全面に押し出していける組織体をつくらなければならない。各社の実力を生かすことができるような研究会や会合をつくりあげていきたい。

そのためには、私がいずれ、皆さまのことを理解しなくてはならない。東京には弊社がある九州から月に3～4回は仕事で来ており、東京以外の地方にも頻繁に出かけているので、会合には地域に捉われず参加していきたい。

■3人で問題共有意識を持つ

今般、新任の生産部会長や施工流通部会長とともに新しい執行部体制となったが、すでにこの2カ月の間にかなり活発に動いている。今後は例えば、施工流通部会の会員が現場で不具合を見付けたとき、情報として生産部会に上げ、それをもとに分析を重ねる。普段見逃しがちなトラブルさえも施工流通部会が吸い上げ、生産部会に投げ、生産部会はそれを受け取って、情報を全体に返す。そうした問題共有意識こそが重要だ。特に「情報の共有」という側面では、メールの一斉配信なども実施していく。大事なものは、その情報を即検討するという姿勢を持つことだと思う。

■フットワークを生かして

①法人化は十分な検討を

2012年度の事業計画が3月の総会で決議されたが、まずは目玉の一つに「一般社団法人化の検討」がある。今後十分に検討・議論・討議を尽くしたうえで、12月の理事会で結論を出していきたい。そこで皆さまの賛同が得られれば登録手続きに入り、法人化したい。法人化すれば社会的信用度が向上し、今後我々がやろうとしている事業にフォローの風が吹いてくる可能性が高いからだ。

②合同PR、林野庁がメイン

次にPR活動の強化を図りたい。東京、名古屋、大阪と展開するなかで、他の関係団体と協調しながら陳情活動に取り組む「合同PR」を実施する。林野庁をメインに国土交通省、経済産業省のほか、地方自治体などを対象に積極的に行っていく。

③技能者の育成、検査表を定着させる

また、施工技能者の育成が求められる。この分野には難しい側面もあるが、現在WGで作成している「検査表」の定着や講習用資料の認知度を高めていきたい。職人不足問題をみるに、若い職人が減少しているなか、職人の生活基盤の安定化を図らなくてはならない。それにはまず、需要の掘り起こしが必要で、仕事量の増加が密接に関係してくる。

④合法木材の啓蒙、研修会実施

さらに、合法木材の安定供給がある。今後、各自治体にも合法木材の供給要請が高まるとされる。すでにそれが条件の現場も出てきている。啓蒙活動を図っていくと同時に、会員向けの研修会も実施していく。

⑤パワーアップ工業会

最後に、「組織の強化」が今年度事業の終盤までのテーマとなろう。今後は会員外の関係者にも啓蒙活動を行い、会員増強を図っていく。最も重要なのは、繰り返しになるが、若手会員の活躍の場を執行部が作りあげていくことだ。

歴史ある工業会。総員総力を持って取り組んでいく。「木質エコポイント」の提言などアイデアは尽きない。「パワーアップ工業会」にぜひ、ご期待いただきたい。

11月に講習会開催、「施工実技」を解説

「工事検査表」WG

日本フローリング工業会の「フローリング工事標準検査表作成ワーキンググループ(WG)」(総括＝中川俊勝理事、主査＝石本勝範理事)は5月8日から2日間、茨城・牛久の淡路技建で、今年11月に開催予定の「検査表講習会」で担当講師が使用するパワーポイント(プレゼン資料)の写真を撮影を実施した。

同WGは、昨今マンション工事などで問題化しているフローリング施工における「傷補修」に関して、その責任所在を明確化するため、ゼネコンなど元請けの現場監督に、工事完了引き渡しの承認を求める自主検査表のフォーマットを作成することを目的に設置されたもの。下請け業者が不利な立場に陥らないような体制を構築して、さらなる高品質施工の実現や、新規会員の獲得を図る考えだ。

■新木場で「検査表講習会」開催

同工業会は今年11月をめぐりに東京・江東は新木場の木材会館で、施工流通部会員(施工管理会社)などを対象とした「フローリング工事標準検査表講習会」を開催する。検査担当者のレベルアップを図ることが目的だが、会員拡大を図るため一般企業(外部)関係者の受講も検討する。外部関係者には「受講証明証」のみを発行し、検査表の「使用許可証」の発行は同工業会への入会を前提とした。

講習会では、検査表の趣旨やフローリング・二重床メーカーの施工要領、安全・労災関係などを解説するほか、写真などを用いたプレゼン資料を上映して施工実技の習得を図る。

検査表は乾式二重床工事用、フローリング工事用(釘打ち)、フローリング工事用(接着工法)の3種類で、策定分野については初年度(2012年度)は業務量の多い集合住宅工事向けに限定し、次年度以降は必要に応じて学校施設(体育館など)やその他公共工事向けを加えることとした。

■淡路技建で撮影

講習会で担当講師が使用するパワポ資料の写真撮影は、淡路技建の本社(茨城県牛久市栄町)で実施した。淡路技建がPBや合板、支持脚、根太システム、二重床用接着剤。大建工業が150幅と303幅のフローア。WGが撮影用カメラや三脚、職人、作業員ヘルメット、ヘルメット添付用シール、作業服、石膏ボード、巾木、接着剤(ニコシ床職人)などを用意。①下ごしらえ、②床下地組、③フローリング貼の各施工過程を撮影した。

撮影セッションのメンバー(敬称略)は、森隆之(WG副主査)、田伏大伸(企画立案委員長)、外瀬英規(講習資料制作実行委員長)、矢野伸和、渡部泰、長谷川秀和(講習資料制作実行副委員長)。

外瀬英規委員長は「昨年5月30日にWGが発足し、今年2月28日に講習会の概要が決まって以来、4カ月を経て、準備を急ピッチに進めている。当初は、どうしたらいいのかと戸惑うこともあったが、なにしろ、

なにがしかのかたちをつくらなければならないということで、WGが一丸となって資料づくりに励んできた。分かりやすく説明するために試行錯誤を重ね、ここにきて完成のめどが立った。講習会当日は講師として、パワーポイントを用いて施工ノウハウの詳細を解説したい」と話している。

■解説

近年、主にマンション工事において、施工中・後のフローリングを他の工事会社(次工程業者)が破損した際、その補修費用の負担を元請けのゼネコンが下請けのフローリング施工会社に強いるケースが増えている。なかには、度重なる補修負担で収益性が大幅に悪化して業績悪化に陥る事例がみられるなど、下請けが元請けに有償補修を請求できる仕組みづくりが喫緊の課題として求められている。

一方、建築業法では第24条において「元請負人は、下請負人からその請け負った建設工事が完成した旨の通知を受けた時は、当該通知を受けた日から20日以内で、かつ、できる限り短い期間内に、その完成を確認するための検査を完了しなければならない」と規定されるなど、下請け業者にとって有利なルールがあるのにもかかわらず、それが施工現場サイドで認知されていないという現状もある。

■策定趣旨

日本フローリング工業会・施工流通部の会員は、集合住宅や学校施設などの公共施設を主体に大手建設会社などからフローリング施工を請け負っているが、施工完了を示す「引き渡し検査日」が明確でないことなどから、施工後のクレームに伴う補修の責任所在が曖昧なゆえ、その補修費の大半を負担するケースが見受けられ、会社経営上の観点から改善の必要性が高くなっている。

このため、クレームの減少を実現しうる施工会社の管理能力の向上を図り、工業会会員の仕事確保につながる方策として、材料の受け入れから施工完了に至るまでの工程ごとに完了確認を行う「日本フローリング工業会・フローリング工事標準検査表」を策定することで、施工管理会社の技能士のスキルアップと有償工事ができる体制づくりを推進する。



「検査表講習会」で担当講師が使用する資料の写真撮影用に組まれたセット(茨城・牛久、淡路技建)



写真を用いて施工要領を分かりやすく解説する



講習会の開催内容などについて議論を重ねた1月19日午後3時36分、東京都江東区深川

●公共工事、4カ月連続増

国土交通省が5月31日発表した4月の建設工事受注総額は、前年同月比16.2%増の6443億円となり、3カ月ぶりに増加した。

民間工事は22.6%増(3カ月ぶりの増加)の4721億円(製造業16.5%増、非製造業24.6%増)。公共工事は22.1%増(4カ月連続の増加)の1110億円(国43.6%増、地方9.9%減)。

国内工事は6249億円(3カ月ぶりの増加)、海外工事は194億円(2カ月ぶりの減少)となった。

●住宅着工、賃貸住宅が過去最低

2012年4月の新設住宅着工戸数は、前年同月比10.3%増の7万3647戸となり、3カ月連続で増加した。国土交通省の総合政策局・情報政策課・建設統計室は「分譲マンションの着工が大幅に増加したこと等を背景に、総戸数が3カ月連続で前年同月の水準を上回るなど、持ち直しの動きがみられる」との見解を示した。

利用関係別では、持家＝注文住宅＝が前年同月比2.5%増の2万4137戸、貸家＝賃貸住宅＝が16.5%増の2万5823戸、給与住宅＝官舎・社宅＝が0.1%増の718戸、分譲住宅＝が13.0%増の2万2969戸(マンション27.0%増の1万3734戸、一戸建住宅＝建売住宅＝2.8%減の9147戸)だった。

●着工床面積、民間の教育施設16%増

2012年4月の全建築物の着工床面積は、前年同月比0.9%増の1095万平方メートルとなり、2カ月ぶりに増加した。公共の建築主は5カ月ぶりの増加、民間の建築主は2カ月ぶりの増加。

構造別では、木造が4.2%増の427万平方メートル、非木造が1.1%減の668万平方メートル。

用途別では、非居住用のうち、教育・学習支援用の公共が4.1%減の24万平方メートル、民間が16.0%増の17万4000平方メートル。医療・福祉用の公共が9.0%減の10万7000平方メートル、民間が35.8%減の61万5000平方メートルだった。

●木造の「構造計算」を整備、林野庁事業

木質構造研究の第一人者を中心に、エンジニアリングウッドのメーカーや設計者らが共同で、木造建築物に関する構造計算を整備する林野庁事業が動き出している。木造建築物に取り組む設計者を増やし、木造建築物の市場を拡大することが目的だ。潜在ニーズが高いとされる商業施設や事務所など中層大規模木造を対象とした構造設計関係の情報整備に、道筋が示されようとしている。

●全社、増収増益見通し 住宅市況伸続 住宅大手7社

住宅大手7社の2013年3月期の連結業績予想が出そろった。大和ハウス工

合同PR実施、通常総会を開催

生産部会長に佐藤仁明氏

■臨時総会、1月20日

日本フローリング工業会の生産部会は1月20日、北海道・札幌で臨時総会を開催し、会員11人が出席するなか、3月2日の工業会総会に向けた改選手続きを実施。部会長に佐藤仁明氏、副部会長に佐藤正明氏を選任した

■中部地区4カ所で合同PR、5月16日

5月16日、中日本フローリング協会と合同で、愛知県や三重県、岐阜県、静岡県の県庁4カ所に陳情し、要望書を提出した。11人参加、55班編成。

■関東地区51カ所で合同PR、6月22日

6月22日、工業会関東支部と合同で、東京都の区役所や近隣の市役所51カ所に陳情し、要望書を提出した。12人参加、10班編成。

■関西地区20カ所で合同PR、7月27日(予定)

7月27日、関西フローリング協会と合同で、兵庫県や大阪市、京都市の県庁・市役所のほか、設計事務所など20カ所に陳情し、要望書を提出することとしている。13人参加、6班編成。

一般社団法人化を検討

■新会長に久津輪氏が昇格

日本フローリング工業会は3月2日、東京・港は浜松町の東京會館で通常総会を開催し、所定の議案を満場一致で承認可決した。役員改選では田伏恬弘会長(マルコー会長、関東・甲信越支部)が辞任し、後任に久津輪光一氏(池見林産工業社長、九州支部)が昇格。副会長には佐藤仁明氏(矢島木材乾燥社長、北海道・東北支部)、川鍋順三郎氏(明治リビング社長、関東・甲信越支部)、佐藤正明氏(佐藤工業社長、中部支部)、千葉利男氏(大晃社長、近畿・中国・四国)が就任した。

2012年度事業計画案における実施計画では、同工業会の一般社団法人化を検討することが示された。社会的信認の維持・向上を目的に、各支部などにおける議論を経て、12月に予定されている理事会で可否を判断するもよう。

また、施工技術の向上や施工技能者の育成を図るため、「フローリング工事標準検査表」を作成する。今秋には講習会を開催するほか、「フローリング張り標準仕様書」の普及・定着を推進する。



東京・浜松町の東京會館で開催された通常総会＝3月2日午後4時27分、東京都港区浜松町



式典の冒頭、あいさつする久津輪光一新会長＝3月2日午後4時59分、東京都港区浜松町



業の経常利益が過去最高となるなど、全社が増収増益の見通しだ。各社とも住宅市況が堅調に推移するとの判断から、強気の販売目標を設定、営業活動を強化する姿勢をみせている。

●全社、増収増益基調 建材流通好調 建材卸大手3社

建材卸大手3社の2013年3月期の連結業績予想が出そろった。業界最大手のJKホールディングス(ジャパン建材)は売上高を前期比4%増の3020億円と見込むなど、全社が増収増益の見通しだ。

建材卸売りは住宅着工の回復と震災関係の需要で販売数量が増え、増収増益基調にある。ただ、今年度は世界経済の停滞のほか、円高の定着、電力不足の深刻化などの不安要因から、「回復感限定されたものになる」との見方が強い。

●長江デルタエリアを強化 中国・上海に事業拠点 住友林業

住友林業(東京都千代田区、市川晃社長)は、中国での木材建材流通事業の販売強化や住宅事業の体制整備などを目的に、上海市に子会社を設立した。世界経済の停滞感が強まるなか、漸進的な需要拡大が見込める中国の住宅市場で投資を進め、競争優位の確保を急ぐ。

同社ではこれまで、2007年に設立した住友林業(大連)商貿が、中国における木材建材の流通を担ってきたが、一拠点で広大な中国全土を網羅するこ

とが困難になってきたため、今回上海に事業拠点を新設する。中国最大の経済圏である長江デルタエリア(上海市、浙江省、江蘇省)における販売体制を強化。住宅事業拡大に向けた体制整備や、中国国内のグループ会社に対しコンサルティングサービスなども行う。

●首都圏最大の旗艦店開設、LIXIL

住生活グループ(東京都中央区、藤森義明社長)傘下の住宅設備機器・建材メーカー、LIXIL(リクシル、東京都千代田区、同)は、住宅各社のショールームが集まる激戦地の東京・西新宿エリアに、住宅設備機器・建材メーカーのショールームでは首都圏最大級となる旗艦店を8月にオープンする。

新たなショールームは、システムキッチンやバスルーム、トイレといった水まわりのほか、タイル、インテリア建材、窓、玄関、門扉、フェンスなど、LIXILグループの住まいに関する豊富な商材をワンストップで展開する戦略店だ。



九州支部だより

平川和彦・九州支部長(株式会社平川木材工業)

九州もまもなく梅雨入り(沖縄は4月28日に梅雨入り)します。無垢フローリングにとっては湿気による膨張、または虫などのクレームも発生しやすい、1年で一番いやな時期に入ってきます。

九州支部は去る1月26日、新年会と兼ねた支部会を熊本で開催いたしました。熊本は熊本産業久保社長の本拠地で、社長ご推薦の割烹に4社6名が集まりました。弊社がフローリング工業会に入会した9年前の会員数は10社の会員がおられ、また、仕事量も多くにぎやかな支部会だったことを思い出します。

しかし、現在では5社に減り、支部活動も行われぬなど今後の支部活動の存続も危ぶまれるようになりました。会議においては役員改正を行い、各社意見を出し合いました。工業会に入会している意義やメリットなど、なかなか難しい問題でさまざまな意見交換がなされました。

その中で日本フローリング工業会の新会長になられた

久津輪社長が、今後の工業会の進む方向性や、改革を進めていくなどの抱負を熱く語られたこともあり、我々も九州より選出された新会長を支えようという意見の一致をみてまとまりました。

その後はおいしい熊本名物の馬刺や海鮮料理を堪能した次第でした。



ひとこと

久保元續・九州支部(有限会社熊本産業)

日本フローリング工業会に「入んなっせ!!」「わかりました。入ります」と九州支部の方から勧誘があり、入会して早いもので数年が経過しました。当時、九州支部も10社程の会員がいましたが、今では5社になりました。実は私も退会する機会を伺っていたところ、今年九州支部より久津輪会長が選出されまして、思いとどまった次第です。

工業会の事業計画の中で「施工技能者の育成を図る」という項目があります。今年、弊社で公共物件を受注した際、「内装仕上げ一級技能士」の資格を持っていないければ工事は出来ない旨、通達がありました。

私の認識不足で「木質系仕上工事の技能士国家試験はまだ実施されていません」と返答したところ、実は2年前から行われていた訳です。そんなことで大変な思いをし、それがきっかけでインターネットで調べ、今年、内装仕上施工のなかで木質系仕上げ工事の一級技能士国家試験を申し込んでいるところです。

工業会では、このような国家試験の情報や資料提供は出来ないのでしょうか。これから先、業務を遂行し

ていくうえで職人不足の問題、フローリング工事標準検査表の取り組み、その他さまざまな問題が山積みしています。今回、私はこの木質系仕上げ工事の技能士資格が何よりも重要だと痛感しました。

末端の会員にとって、今何が一番重要な課題なのか、このようなことを工業会で一つひとつ解決していくならば、退会者も少なくなり新会員も増えるのではないのでしょうか。

以上、僭越ながら私の所感の一端を述べさせていただきました



● 広報法務委員連絡先

委員長	石本 勝範	06-6538-7221
委員	松原 由典	0123-72-1223
委員	矢野 伸和	047-353-2100
委員	佐藤 正明	0547-45-2174
委員	當舎 弘造	072-276-1600

● 告知版

- ・10月18日(木)・・・施工流通部会(東京)
- ・11月 2日(金)・・・生産部会(宮城・仙台)
- ・11月 8日(木)・・・合法木材研修会(東京・新木場)
- ・11月30日(金)・・・工事検査表講習会(東京・新木場)

● 会員動向

平成24年7月1日時点

正会員	58社
賛助会員	23社
合計	81社

会員会社の広告

掲載したい会員会社の方は、広報法務委員までご連絡をお願いします。

● 編集後記

鹿島建設の旧本社ビル跡地に超高層複合ビルが誕生した。東京メトロの赤坂見附駅から徒歩1分、高さ160m、地上30階建ての「Kタワー」は、テナントオフィスを核に賃貸レジデンスや店舗を整備。白のグリッドと濃灰色のガラスが織りなす同社伝統のファサードデザインを採用した「100年以上使える建築」だ▼「構造を隠さず表現する」というコンセプトのもと、6年の歳月を費やし、企画から開発、設計、施工をオール鹿島が手掛けた。構造美と機能美を追求。建物の荷重を支える柱や梁、そして制震装置まで建物外周部に露出させた「アウトフレーム構造」という新しい構造技術へと進化を遂げている。